



背景と現状

芦田川の河口に位置する竹ヶ端運動公園は、市民の総合体育施設として広く利用されてきた。施設内には、陸上競技場、運動場、野球場、弓道場、テニスコート、水上スポーツセンターなどが集まっており、地域の大会で使われることが多い。また、竹ヶ端運動公園から小水呑橋までの間は国際大会ができる漕艇競技の会場としても使われている。

問題点

老朽化 対岸からは利用しにくい 施設と川との関連が曖昧



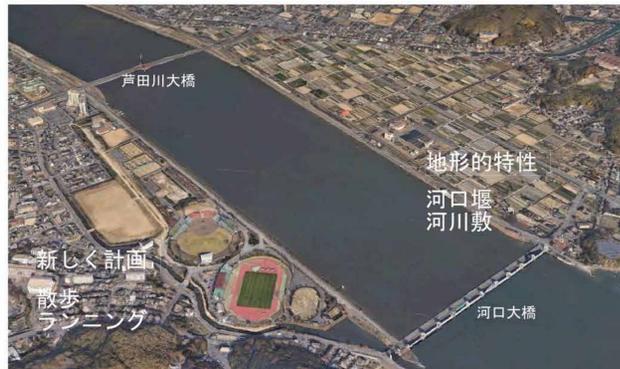
計画敷地

福山市水呑町にある竹ヶ端運動公園、芦田川大橋、芦田川河口堰、その間の川・道路を計画敷地とする。



計画目的

当計画は、芦田川大橋と河口大橋に挟まれた河川敷にある地形的特性や河口堰を活かした運動公園を計画する。さらに、散歩やランニング等の身近にできるちょっとした運動から利用することができ、より運動を楽しむことができる空間にすることを目的とする。



敷地周辺の分析

- 道路は車が通り、歩行者専用道路はない
- 芦田川の河口付近は河川敷がなくなっていて、川と親しみにくくなっている
- 河口部の水は河口堰によって海に流れる量が調節されているため流れが少なくため池のような状態になっている
- 竹ヶ端運動公園は、広域避難場所に指定されている。

ダイアグラム

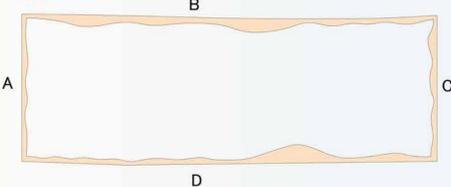
基本型(回遊と積層)



- 回遊性を持たすことで川によって分けられている兩岸を繋がりをつくる
- 積層することにより高さが異なるものの繋がりをつくる
- デッキに段差を付けて川の水位を視覚化したり、段差に座ることができる

構成要素 プログラム

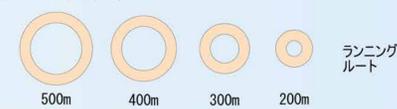
回遊 1



- A 芦田川大橋に取り付けるデッキ
- B 岸に取り付けるデッキ
- C 河口大橋に取り付けるデッキ
- D 岸に取り付けるデッキ

川によって、バラバラになっていた芦田川大橋、河口堰とその兩岸をA, B, C, Dのデッキによって繋ぎ、回遊できる空間をつくる。

回遊 2, 3, 4, 5



それぞれ距離の異なる円形のランニングルートを計画する。回遊1を一周するのは距離が長いですが、少し運動したいなという時に利用できる。

回遊 6



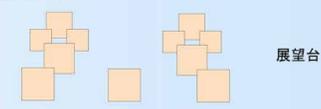
運動施設の観客席の外側に円形のデッキを計画することで、走ったり歩きながらスポーツを観戦することができる。

積層 1



回遊11にカフェを計画する。デッキは川の水が大雨などで増水すると水につかってしまうので積層することで高さを確保し、浸水を防ぐ。

積層 3



河口堰を利用して展望台を計画する。高さや大きさの異なる整形のプレートを積層させる。

積層 2



デッキに段差を付けて穴をあけることで、段差に座ってゆっくりすることができる。

積層 4

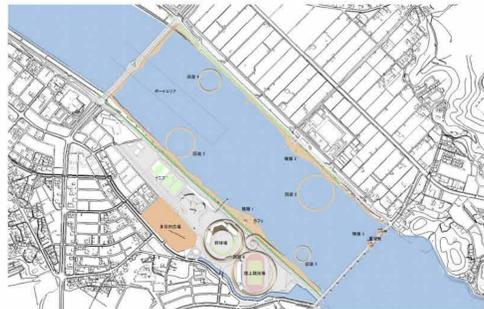


スロープによって高さに差があるものにつながりをつくる。特に、道路によって分断されている運動公園と川を繋ぐ。

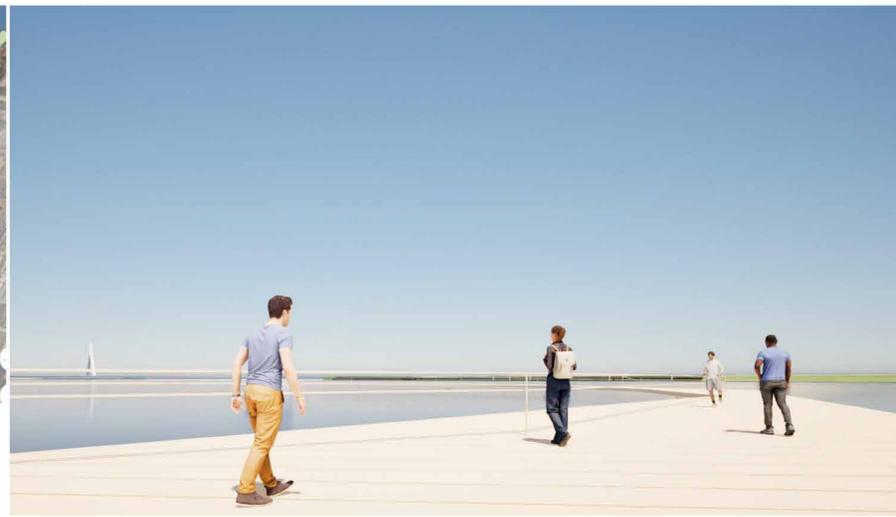
デッキ



全体パース



配置図



円形デッキ



水面に映るデッキ



デッキ



休憩スペース

計画の基本方針は、歩くことから運動を楽しむことができるように芦田川大橋、芦田川河口堰と両岸で囲まれた河川空間を一体的に計画し回遊できる空間にする。

両側の堤防を兼ねた道路の川側と、芦田川大橋と河口堰に歩行者専用デッキを設け、4周繋いで回遊できるように計画する。直径や高さの異なる幾つかの円形状のデッキを河川敷から突き出して計画する。

直径の異なる円形デッキは、目的に応じた長さの周長を選んで、ランニングや散歩をできる。休憩スペースは、デッキに穴をあけ段差を付ける。川の水の量によって、水面の高さの違いを楽しんだり、段差に座ってゆっくりできる。休憩所は、デッキから突き出して計画することでより水と親しむことができる。



南側デッキ断面図 (S=1/600)

展望台



展望台 パース

河口堰に海を眺めることができる展望台を計画する。河口堰を利用して異なる整形のデッキを積み重ね順番にのぼっていく。展望台からは海を眺めることができる。川に浮かぶ円形デッキと同様に手すりを円形にし一体感をだした。



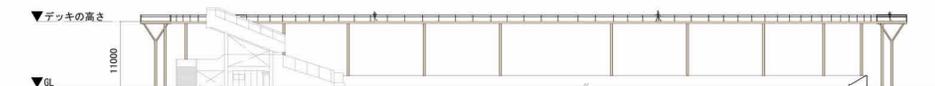
展望台からの眺め

野球場・陸上競技場



俯瞰図

陸上競技場と野球場の外部に円形のデッキを計画する。デッキはそれぞれの観客席の最高の高さに設けることで、運動公園を見下ろすことができ、景色を楽しむこともできる。デッキは歩いたり走ったりでき、運動をしながらスポーツを見ることができる空間を作り、より運動を身近に感じれる。それぞれの円形デッキは連結し、間には道路を渡って河川敷に設けるデッキにつながるスロープを計画する。陸上競技場や野球場が利用されていない時もデッキを利用する人によって、賑わいを生み出せる。



野球場 断面図 (S=1/600)



陸上競技場 立面イメージ図 (S=1/600)

カフェ



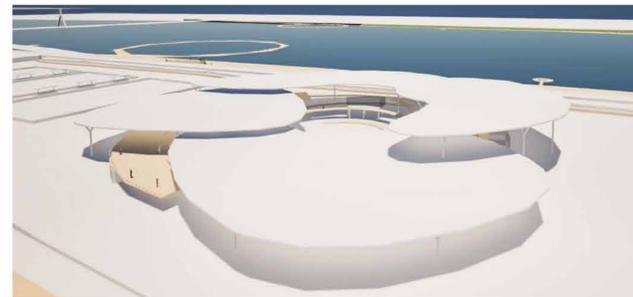
カフェ パース

カフェは、河川敷にデッキを積層しその上部に計画する。お店の中や外のデッキに出て食事ができる。また、壁をガラスにすることで景色を見ることができるようにした。川が増水してデッキが水に浸かってしまうことを考え、道路と同じ高さ設ける。積層したデッキには、段差を利用して座り河川を眺めることができる。カフェを両岸に配置し、向かいに見えることで反対側にも行ってみたいくなるようにした。



北側立面図 (S=1/200)

施設



外観パース

以前プール場があった敷地には新しく施設を計画する。施設には、公園の管理室、更衣室、ジムスペース、スポーツグッズのショップ、トイレ、休憩スペースを設ける。一面芝生の屋上では、ゆっくりすることができ、施設や運動公園、芦田川を見渡せる。中心は広場にし、子どもたちが走り回ったりできる。屋根は積層をモチーフとし、葉っぱが重なり合っている様子をイメージし、木漏れ日がさすような暖かい空間になるようにした。



南西立面図 (S=1/200)



内観パース